

平成 29 年 3 月 7 日

生徒・保護者の皆様

厚木高等学校長

平成 28 年度 第 2 回生徒による授業評価結果について

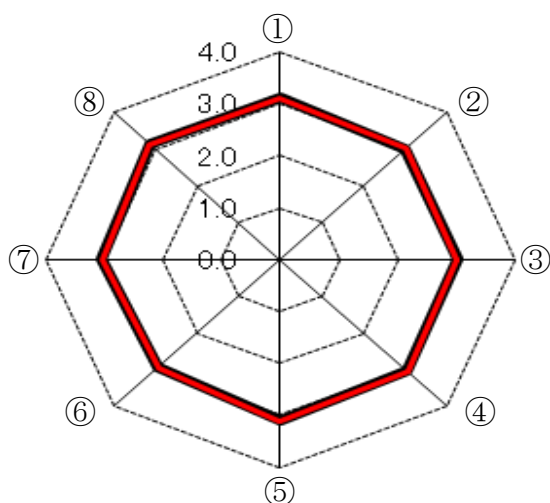
春寒の候、保護者の皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今年度 12 月実施の「生徒による授業評価」について報告いたします。全教科全学年の合計を見ますと、全ての質問項目について肯定的な回答を示した生徒が 80%以上となっており、レーダーチャートの形も非常にバランスの良いものとなりました。しかし、これらの数値については全教科の平均値ですので、教科によるバラつきもあり、少数ではありますが、授業に満足を得られない生徒もおります。項目別に見てみますと、授業内容の観点では、「③ 授業の進め方」の評価が、指導方法の観点におきましては、「⑥ 生徒への接し方」の項目が前期を上回る結果となりました。また、本校が取り組んでいる、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業研究に関わる「④ 生徒主体の授業の工夫」の項目においても、肯定的な回答を示した生徒の割合が増加しています。課題も残されていますが、各教科とも生徒の主体性を重視した授業改善の取組の成果が表れてきていると、考えております。

今後も、質の高い授業を目指し、教職員一同、更なる研鑽を重ねて参りますので、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 結果

（※ 選択番号 → 1：まったく当てはまらない 2：あまり当てはまらない 3：だいたい当てはまる 4：とても当てはまる）																
質問項目	授業内容						指導方法						生徒自身の取り組み状況			
	① 授業の準備 教材の工夫		② 授業の 充実感		③ 授業の 進め方		④ 生徒主体の 授業の工夫		⑤ 説明の 分かり易さ		⑥ 生徒への 接し方		⑦ 学習への 取り組み		⑧ 態度・姿勢	
選択番号	（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1	2.9	2.9	3.2	3.0	3.9	3.3	5.4	4.7	3.7	3.2	4.3	3.4	3.1	3.2	2.7	2.6
2	12.2	10.2	14.3	12.3	14.6	12.7	13.4	12.0	12.3	10.8	18.1	15.3	12.8	12.4	9.9	10.1
3	44.7	47.2	48.0	49.1	46.1	48.5	35.3	40.5	41.6	44.2	44.3	46.2	45.6	46.4	42.5	44.7
4	40.2	39.7	34.4	35.5	35.4	35.5	45.9	42.9	42.5	41.9	33.2	35.0	38.4	38.0	44.8	42.7
平均	3.1	3.1	3.0	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	3.1	3.1	2.8	2.9	3.0	3.0	3.2	3.1



- ① 教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。
- ② 私は授業で学習した内容がだいたい理解できている。
- ③ 生徒の理解度に合わせて、授業が進められている。
- ④ 授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。
- ⑤ 説明の仕方がていねいで、わかりやすい授業である。
- ⑥ 生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。
- ⑦ 私は授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をしている。
- ⑧ 私は授業に対して意欲的に取り組んでいる。

2. 各教科の分析結果

- ・本年度は評価項目4（生徒主体の授業の工夫）について、重点的に振り返りを行い、次の点があげられた。

○ 各教科で取り組んだ内容

【国語】

次の取り組みを行い、生徒が積極的に授業に参加する工夫を行った。

- ・「個人→ペア→クラス」の順での鑑賞、発表。（現代文）
- ・テーマ別のグループでの考察、発表。場面ごとのあらすじの読み取り、発表。（現代文）
- ・定期試験の予想問題作成。（古典）
- ・グループでの現代語訳、発表、解説。（古典）

【地理歴史公民】

- ・各科目の学習内容を時事的な話題と結びつけて生徒に考えさせる機会を設けた（例：民族紛争、天皇生前退位など）。

【数学】

- ・グループワーク形式の問題演習など、教員がお互いのやり方を参考にしつつ新しい形を積極的に取り入れていた。

【理科】

- ・常に新しい教材の開発がある。発表時間の枠を決め、その時間を伝えておき、その時間内で行うので、内容をしっかりと発表している。

【英語】

- ・地雷除去やエチケットなど教科書で扱うテーマに関して話し合う。なお、ディベート形式をとると方向性が明確になり、取り組みがさらによくなることが確認できた。

【保健体育】

- ・保健の授業では、1年生は他校からAEDを借用して、救急法の授業を展開した。2年では、高齢者体験を取り入れ、厚木市の社会福祉協議会との連携で、車椅子介助体験・視覚障害体験と介助・加齢体験歩行など実施した。

【芸術】

- ・器楽や、創作等で「なぜ自分たちはこういうアレンジを加えたのか」「なぜこういう楽曲づくりをしたのか」など考えをまとめ発表させた。

【家庭科】

- ・身近な生活をテーマに一人ずつスピーチを行った。実習では、全体での説明をなくし、グループの中で担当者ごとに作業内容や注意点を伝え、グループに伝達させる方式をとった。また、作品を生徒同士で評価させたり、意見やコメントもグループでまわし読みするなどして、他者の考えにふれる機会を多く設けた。

○ 次年度にむけた取り組み

- ・科目、教科という枠にとらわれず、教員同士で積極的に情報交換を行い、授業改善に努めていく。

問合せ先

教頭 加藤 一彦

TEL 046-221-4490